

オフィス町内会



会報

春よ来い号

緑のルール

コミュニケーションのルール 2001年オフィス町内会
国が率先するルール
グリーン購入法について

発行日 平成13年3月5日
発行 平野町内会事務局 代表・半谷寿夫（東京電力）
連絡先 〒108-8557 東京都港区芝浦4-6-14 東電環境エンジニアリング（株）
オフィス町内会事務局 発行本部 TEL 03-3454-0408 FAX 03-3452-4815
編集 オフィス町内会事務局 副代表 梅原誠 エーファナ

平成3年に発足したオフィス町内会は、今年10周年を迎えます。紙ごみの減量化・資源化への取り組みとして、独自の方式による古紙の共同回収を参加企業30社38事業所でスタートしました。昨年未現在、オフィス町内会会員企業は、平成7年から開始したエコ・オフィス町内会を含めて1000事業所を越え、古紙回収量は初年度約270トン/月だったのが、約720トン/月にまで増えました。

また、再生紙の使用拡大を図るための活動は、古紙100%トレットペーパーの7万人モニター試用を皮切りに、古紙再生紙製品の商品化を通じて呼びかけを継続しています。さらに平成6年度には白色度意識改革プロジェクトを発足し、地球環境時代の品質やサービスのあり方についての提言を

行った、全国の主要都市で「コピー用紙の白色度シンポジウム」を開催するなどしてきました。

果、今年の4月からは「グリーン購入法」が全面施行されることになり、行政機関においては民間オフィスでも白色度70再生コピー用紙の採用に拍車がかかることが期待されています。

同時に10年という節目を迎え、これからも地に足の付いたオフィス町内会活動をつつと積み重ねて行きたいと思えます。オフィスで働く一人ひとりのリサイクル意識、それが「グリーン購入法」やこれからの時代の緑のルールを推進する原動力です。

2001年オフィス町内会

今年、10周年を迎えます

継続は
力なり

行い、全国の主要都市で

「コピー用紙の白色度シンポジウム」を開催するなどしてきました。

果、今年の4月からは「グリーン購入法」が全面施行されることになり、行政機関においては民間オフィスでも白色度70再生コピー用紙の採用に拍車がかかることが期待されています。

同時に10年という節目を迎え、これからも地に足の付いたオフィス町内会活動をつつと積み重ねて行きたいと思えます。オフィスで働く一人ひとりのリサイクル意識、それが「グリーン購入法」やこれからの時代の緑のルールを推進する原動力です。

「肥後の守」は何でも出来る。

株式会社関電工総務部副部長 勝亦昭次



オフィス町内会設立当初から活動に参加している関電工の勝亦さんは、廃棄物減量化の担当責任者としてリサイクル推進に取り組んでこられたが、これを機会に、同社では平成12年度のリサイクル率は85%、古紙に限れば96%という高い数値が見込まれている。これは、10年間の積み重ねが数字になって現れたものだ。とても丁寧な話しぶりで、熱が入っているととらえられ、熱がもたらす成果は、リサイクルのお話を聞かせてもらった。

一人ひとりの意識

「リサイクルは会社がやりなさい」という形で始めるわけだけだ、と、躍起になって押しつけても良い成果が生まれるはずはありませぬ、人にやれと言っただけで、

自分はその人の立場に立ってみると、やっぱり意識が変わらなければ何も変わらないと思えるんです。

次のこと勉強中

「これまではリサイクル率を上げるのが主な目標でしたが、これからは経費の見直しや循環型社会関連六法案との照らし合わせ、そして再生品の使用についてなどが目標になってきます。でもこれらがなかなか難しい。再生品なら何でもいいのかと思うと製造工程で問題のある製品もあるようですし、法律に適合していることでも絶対正しいと言いきれないこともある。い

まは、そういうことの勉強中です。子供の頃、ポケットの中にはいつも肥後の守（ひごのまもり）のかがみがあった。鉛筆を削るのはもちろん、竹とんぼを作ったり棒を削ったり、これさえあれば何でも出来るような気分でした。いまの時代に肥後の守を持ち出そうというわけではありませんが、これってエコ文具のようにながさるんですよ。」



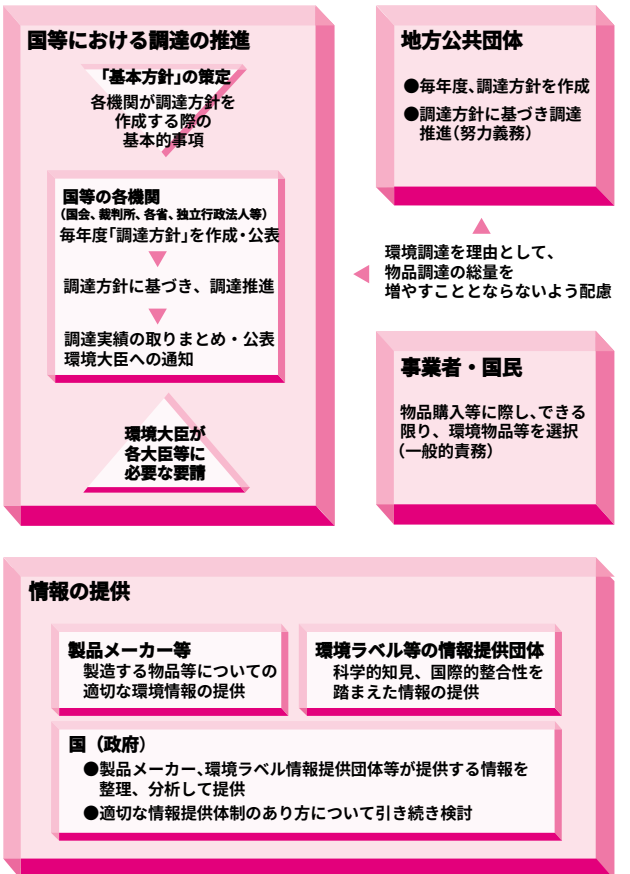
インタビュの関勝亦さんは1センチほどに短くなった鉛筆をキヤップにはめて手にしていた。勝亦さんの意志・行動・人柄そのものに見えた。

グリーン購入法

を知っていますか？

平成13年4月から「グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進に関する法律）」が施行されることになりました。環境への負荷が少ない持続的発展が可能な社会づくりのために、国が率先して環境物品の使用を推し進めていくことを定めた法律です。コピー用紙については「白色度がより低い再生紙がリスト化され、環境大臣から国の各機関、地方公共団体、事業者、国民に白色度70製品が推奨されることになりました。私たちが行ってきた白色度運動の広がり、一気に拍車がかかることが期待できます。

グリーン購入法の仕組み



白色度70再生コピー用紙の製品リストは
オフィス町内会および環境省のホームページでご覧になれます。

オフィス町内会 <http://www.tgn.or.jp/office-c>
環境省 <http://www.eic.or.jp/eanet/sossen/slist.htm>



NZの植林パイソンの家具

FSC公認の木の家具

日本とニュージーランドの家具メーカーが共同開発した木製家具とパイソンの植林地を取材する機会を得ました。この家具と原材料となるパイソンは、FSC「森林管理協議会／Forest Stewardship Council」という国際的な森林保護機関に認証されたものです。FSCでは厳正なガイドラインを設け、環境保全の点から社会的な利益に適い、経済的にも継続可能な森林管理がなされて



いる森林や木材製品を認証しています。この家具は木材ばかりでなく染料、接着剤、仕上げ剤にいたるまで人体と環境に害のないものを厳選して作られていました。

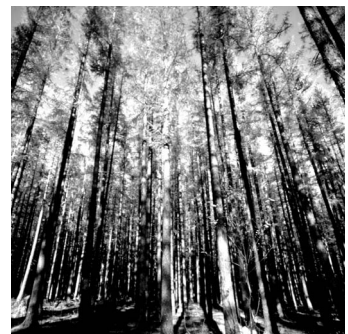
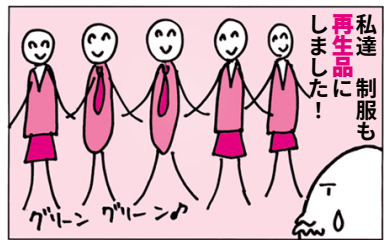


また、植林地を訪ねてみると、ニュージーランドの植林パイソンは40年サイクルで育てられるというので、植えられたばかりの苗木、枝を伸ばし始めた若い木、枝打ちされた幹を連ねている高木

は「畑で穫れた家具」というわけです。木の家具ばかりでなく天然素材の製品は人にやさしいものですが、そのやさしさを得るためには私たちはもつと自然への理解を深め、自然と共に生きる生活スタイルを身に付けて行かなければならないことを実感できた貴重な体験でした。（レポート／編集担当 エーランティヒ）

◎この家具についてのお問い合わせは、左記までお願いします。
（株）アスブルンド
担当・三ツ橋
東京都港区三田4-1-9
三田ヒルサイドビル9F
tel 03-3769-0788
fax 03-3769-0668

ななくん



「困ってるんです。」

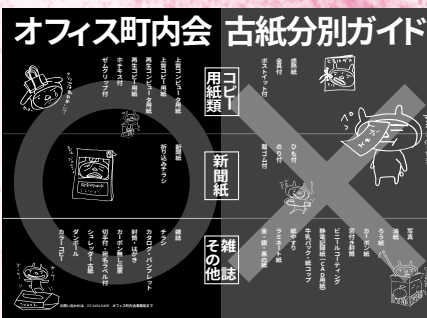
オフィス町内会の回収会社が困っている話

去年の春、オフィス町内会事務局ではみなさまの事務所内でのリサイクル活動をお手伝いするツール4点セット（古紙分別ガイドポスター・古紙分別ガイドステッカー・古紙分別ガイドリーフレット・分別ボックス用シール）を収めた桜色の封筒をお届けいたしました。その後はいかがでしょうか？

古紙リサイクルの鍵は分別です。ルールにのっとった分別が再生率を上げ、コストの削減にもつながります。日頃から、多くの会員のみなさまには分別にご協力いただいておりますが、まだ分別しきれていないのが現状です。その分別しきれなかったものはどうなっているかというと、協力回収会社さんが手作業で分別しているのです。中には、お弁当の空いた



容器や、空き缶、お菓子の袋などの異物が混入していたという話も少なくありません。オフィスで働くひとりひとりが、ちょっと気をつけて分別することでリサイクルの効率がぐんと上がります。ぜひ分別ガイドを活用して、再点検してみてください。もし、まだ分別ガイドのセットをお持ちでない方や、オフィスにもっと掲示したい方がいらっしゃれば、事務局に若干のストックがありますのでお問い合わせください。オフィス町内会事務局 tel.03-3454-0408



今号の短歌

この春ばとけたら君に会いに行こう
誓いあらたに今日春立ちぬ
がじん

トピックス

短歌のコーナースタート。

「春よ来い」いい響きですよ。なを歌おうかなあって考えていたが、考えているだけで何だか幸せになれる題です。幸せな気持ちで素直に詠めばいいんじゃないかなあと思いましたが、短冊に書かれた歌に添えて、こんなメッセージを詠人ぷりんさんが、雪深い北陸の地から届けて下さいました。好きな文学に専念するため、独立されましたが、会員企業に居られた方で、大和撫子の感受性を継承するとても素敵な女性です。短歌は五・七・五・七・七の三十一の文字で綴られた歌で、その響きは万葉の時代から今に至るまで愛され続けています。俳句の季語のような約束事ではありませんが、日本の美しい四季が移ろい姿を号の副題に合せて、詠んでいただきました。今後とも期待下さい。

NZで出会った少年の本



本紙でレポートした「NZの植林パイソン」取材での出来事を、編集担当のデザイン事務所・エーランティヒが小さな本にまとめました。現地で出会った羊飼いの少年を題材にした『泥んこの少年』、文庫サイズ36ページです。ご希望の方は3月15日までに事務局までご連絡ください。10名様に差し上げます。

事務局通信

●ぷりんさんが詠んでくれた春の歌にふれ、ことばについて思いました。言葉、ことばが思いを伝え、思いがことばを生む。わずか31の文字は、何も知らなくても何かを感じさせてくれます。

●「継続は力なり」、「困っているんです」、いずれもリサイクルの現場をひとと伝えてくれることばです。リサイクルの輪をひろげていく意識をことばにして、みなさんにお届けしていきたいと思っています。